

GAP 普及大賞／GAP 実践大賞 2022 決定！

普及大賞：(株)セブン-イレブン・ジャパン、(株)クボタとクボタファーム、丸西産業(株)

実践大賞：徳島/JA アグリあなん、鹿児島/(社福)白鳩会花の木農場、青森/(株)木村牧場、

特別賞：栃木/宇都宮大学農学部附属農場

一般財団法人日本 GAP 協会（住所：東京都千代田区、代表理事：荻野宏）は、GAP 普及大賞 2022 の選考委員会を開催し、「GAP 普及大賞」ならびに「GAP 実践大賞」の受賞者を決定いたしました。

シンポジウム『GAPJapan2022』で、受賞された企業・団体を表彰いたします。

今年新たに「GAP 実践大賞」を創設。GAP の実践により SDGs や食品安全、労働安全、ブランド化等を実現した取り組みを募集し、たくさんの方々からご応募をいただきました。

【Web ページ】<http://jgap.jp/gapjapan2022/index.html>



GAP 普及大賞 2022

今年は3団体の受賞が決まりました。

■株式会社セブン-イレブン・ジャパン：「GAPによる地域振興への貢献」

「安全・安心」かつ「持続可能な調達」の実現を目指し、また地域振興にもつながることを目的に取り組みを展開しました。福島県の「福島 GAP チャレンジ」と連携し、県内 421 店舗で GAP 認証農産物を販売、広くメディア等で GAP 認証農産物をアピール。同時に GAP 認証農産物を用いた商品を多数開発し、GAP の紹介とともに店頭で販売。また社内や関係仕入れ業者の計 65 名が指導員資格を取得し産地への GAP 普及体制を構築しました。今後この取り組みを全国に展開することを視野に入れています。

■株式会社クボタとクボタファーム：「総合力による GAP の普及」

直営農場 11 農場において認証を取得し、今後も認証取得拡大を計画。GAP の実践によりコスト改善・労務改善・従業員の意識変革を実現しています。また指導員の育成 23 名（クボタファーム 10 名、クボタグループ 13 名）、販売会社展示会での GAP 普及活動、農場マニュアル・掲示物等の公開、GAP 管理手法支援システム（KSAS）の発売等、多面的・総合的な取り組みで GAP 普及に貢献しています。

----- 一般財団法人 日本 GAP 協会 -----

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-29 日本農業研究所 4 階

TEL: 03-5215-1112 / FAX:03-5215-1113

■丸西産業株式会社：「GAP 認証バリューチェーンの構築」

全国に 22 名の指導員を育成するとともに GAP 担当者を配置し、組織力を活かして契約産地 6 県の 81 農場において認証を取得。生産者とのコミュニケーションにより栽培から綿密な支援を実施しています。また、認証農産物は GAP 認証農産物を求める販売先に提供することにより生産から販売までの GAP 認証バリューチェーンを構築しています。

GAP 実践大賞 2022

初めての栄えある受賞は、次の 3 団体に決定しました。

■徳島県/JA アグリあなん JGAP グループ：「持続的・効果的な認証産地の構築」（JGAP 青果物（すだち））

JA において 10 名の指導員を育成し、関係機関と連携しながら各種マニュアル、帳票等を作成し生産者が GAP に取り組みやすい体制を整備。取り組み当初 16 名のモデル農場を育成し、GAP 導入の効果を地域に示すことにより現在 40 農場が認証を取得し、全会員 48 戸の認証取得を目指しています。GAP の実践により営農改善を実現するとともに、認証取得を活かした有利販売につなげています。

■鹿児島県/社会福祉法人 白鳩会 花の木農場：「GAP を効果的に農福連携に活用」（ASIAGAP 茶）

2021 年に ASIAGAP（茶）を取得。福祉施設の利用者を雇用しているため GAP の実践を活かし、リスク対策により能力に応じた作業分担を実施。特に食品安全、労働安全のリスク評価を綿密に実施し、担当する仕事内容や現場での注意点など、きめ細かいルールを作成しています。これにより食品安全と労働安全を両立し、障害者が安心して生き生き働くことのできる SDGs の目的に合致した環境が整備されています。

■青森県/株式会社木村牧場：「リスク評価からモデル的な農場づくり」（JGAP 家畜・畜産物（豚））

綿密なリスク評価から現場に即した対応手順を定め食品安全マニュアル、農作業安全マニュアルの作成や各種手順書の掲示を行っています。また豚舎屋根を活用した太陽光発電、豚糞の地域農家への還元、労働環境の改善（年間休日 100 日以上）、視聴覚障害者にも配慮した教育等 GAP の実践による SDGs への貢献を実現しています。

特別賞として、次の 1 団体が決定しました。

■栃木県/宇都宮大学農学部附属農場：「GAP を活用した規範となる酪農の実践」（JGAP 家畜・畜産物（乳牛））

JGAP の実践により危機管理体制の構築、搾乳方法の見直し、放牧草地管理の適正化等多面的に農場の改善を実現。これらの取り組みにより学生と職員と牛との関係の強化にもつなげています。JGAP マークを貼付した牛乳「宇都宮大学牛乳 純朴」は基準乳価より高額で販売され、高い評価を得ています。

表彰式「GAPJapan2022 -SDGs の達成に貢献する GAP 認証-」について

表彰式が行われるシンポジウム「GAPJapan2022」は、次の日程で開催されます。
当日会場入場申込、オンライン申込ともに参加費無料ですので、ぜひご参加ください。

【開催概要】

イベント名称 : 「GAPJapan 2022 -SDGs の達成に貢献する GAP 認証-」
開催期間 : 2022 年 10 月 28 日（金）13:00 から 17:30
開催場所 : 有明セントラルタワー ホール A（東京都江東区有明 3-7-18）〈Zoom ウェビナーで同時配信〉
申込 URL : <https://jgap.jp/gapjapan2022/index.html>

<講演>

----- 一般財団法人 日本 GAP 協会 -----

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-29 日本農業研究所 4 階

TEL: 03-5215-1112 / FAX:03-5215-1113

- ・基調講演：「SDGsとGAP」（SDGパートナーズ株式会社 代表取締役 CEO 田瀬 和夫氏）
- ・行政より：「国際水準 GAP の推進方策について」（農林水産省 生産振興審議官 安岡 澄人氏）
- ・特別企画：農業経営支援連絡協議会パネルトーク「農業の持続可能性に関する取り組み」
（一社）食農連携機構、（公社）日本農業法人協会、NPO 法人日本プロ農業総合支援機構、日本 GAP 協会
- ・トークセッション：「食品事業者による JGAP/ASIAGAP の活用事例の紹介」
（株）イトーヨーカ堂、コストコホールセールジャパン（株）、東京促成青果（株）、（農）和郷園

【開催団体概要】

社名：一般財団法人 日本 GAP 協会

所在地：東京都千代田区紀尾井町 3 番 29 号

代表：代表理事 荻野 宏

事業内容：JGAP/ASIAGAP 認証プログラムの開発・運営・管理

設立：2015 年 1 月

HP：<https://jgap.jp>

----- 一般財団法人 日本 GAP 協会 -----

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-29 日本農業研究所 4 階

TEL: 03-5215-1112 / FAX:03-5215-1113

シンポジウム GAP Japan 2022

～ SDGs の達成に貢献する GAP 認証 ～

2022 年 9 月 22 日時点

■開催概要

日時：2022 年 10 月 28 日（金）13 時から 17 時 30 分

場所：有明セントラルタワー ホール A（東京都江東区有明 3-7-18）

■主催 一般財団法人 日本 GAP 協会

■協賛 株式会社アグリコミュニケーションズ、アリスタ ライフサイエンス株式会社、株式会社つくば分析センター、双日株式会社、一般財団法人日本品質保証機構、損害保険ジャパン株式会社

■後援 消費者庁、日本政策金融公庫、日本農業普及学会、日本フードシステム学会、世界緑茶協会、全国茶生産団体連合会、全国農業会議所、全国農業改良普及支援協会、全国肥料商連合会、日本食農連携機構、日本茶業中央会、日本適合性認定協会、日本農業法人協会、日本プロ農業総合支援機構

■開催趣旨

GAP は、農業において、食品安全、環境保全、労働安全、人権の尊重等の取り組みを通じて食の安全や農業の持続可能性を確保するための取り組みであり、近年注目を集める SDGs（持続可能な開発目標）に対し多くの面で貢献するものです。このため「GAP イコール農業の SDGs」と言っても過言ではありません。したがって GAP の推進は農政の重要課題に位置付けられるとともに、東京オリンピック・パラリンピックの調達基準としても注目を集め、その普及は農業から食品産業を通じた共通のテーマとなっています。

日本最大級の GAP のシンポジウムである「GAP Japan」では、「SDGs の達成に貢献する GAP 認証」をメインテーマとして会場とオンラインのハイブリッドで開催します。

■プログラム概要

- (1) オープニング：JGAP/ASIAGAP の今後の展開（荻野 宏（一財）日本 GAP 協会代表理事専務）
- (2) 基調講演：SDGs と GAP（田瀬 和夫 SDG パートナーズ有限公司 代表取締役 CEO）
- (3) 行政より：国際水準 GAP の推進について（安岡 澄人 農林水産省大臣官房 生産振興審議官）
- (4) 特別企画：農業経営支援連絡協議会パネルトーク

○モデレーター

荻野 宏

○パネリスト

木之内 均（NPO 法人日本プロ農業総合支援機構 常務理事）

木村 吉弥（（一社）日本食農連携機構 常務理事）

齋藤 一志（（公社）日本農業法人協会 副会長）

(5) トークセッション：食品事業者による JGAP/ASIAGAP の活用

○モデレーター

針原 寿朗 (住友商事(株) 顧問、(一財)日本 GAP 協会評議員)

○パネリスト

相川 庸介 (コストコホールセールジャパン(株)インポートロジスティック部 副部長)

井上 浩一 ((株)イトーヨーカ堂 食品事業部 ゼネラルマネージャー)

大竹 康弘 (東京促成青果(株) 代表取締役社長)

木内 博一 ((農)和郷園代表理事、(株)和郷 代表取締役、(一財)日本 GAP 協会理事長)

(6) GAP 普及大賞、GAP 実践大賞 表彰式、記念講演

○普及大賞

株式会社セブン-イレブン・ジャパン：「GAP による地域振興への貢献」

株式会社クボタとクボタファーム：「総合力による GAP の普及」

丸西産業株式会社：「GAP 認証バリューチェーンの構築」

○実践大賞

株式会社木村牧場：「リスク評価からモデル的な農場づくり」

JA アグリあなん JGAP グループ：「持続的・効果的な認証産地の構築」

社会福祉法人白鳩会 花の木農場：「GAP を効果的に農福連携に活用」

○実践大賞特別賞

宇都宮大学農学部附属農場：「GAP を活用した規範となる酪農の実践」

(7) 協賛企業からのお知らせ

損害保険ジャパン株式会社

■主催者

一般財団法人 日本 GAP 協会

東京都千代田区紀尾井町 3 番 29 号

■主たる参加者

生産者・生産者団体、食品事業者、市町村・都道府県等行政担当者、消費者